

## 実施報告「子育て支援ノーバディズ・パーフェクト・プログラム」

### ノーバディズ・パーフェクト・プログラム ～ファシリテーターの立場から～

金子 留 里<sup>1</sup>

ノーバディズ・パーフェクト・プログラム（以下NPプログラム）の中でファシリテーターが果たす役目は、参加者が話しやすい雰囲気を作り、参加者の発言に耳を傾け、参加者から学び、参加者同士が互いに学びあうように手助けすることだと言われています。そのために、参加者にとって有益なプログラムになるように内容を調整し、ニーズを満たすセッションを計画すること、また、参加者が自分が受け止められていると感じ、プログラムに積極的に参加し、たがいの結びつきを強め、子育ての知識、自信、スキルを身につけることができるようにすすめるのがファシリテーターの仕事となります。（親教育プログラムのすすめ～ファシリテーターの仕事／ジャニス・ウッド・キャタノ著（監）三沢直子 ひとなる書房2002より）

まだまだ学ばなければいけないことがたくさんあるファシリテーターの私ですが、今回実施されたNPプログラムについて、印象に残ったことを振り返ってみたいと思います。

#### 事前面談

プログラムの実施の前には、必ず参加者と事前面談をして、子育ての現状や抱えておられる問題を知り、プログラムに期待されていることを聞き取りします。またNPプログラムの概要を説明し、参加型学習であることを納得した上で参加してくださるよう説明もしています。

今回の様に公募に自ら申し込みをしてこられる方は、参加意欲が高く、面談にも協力的で話も進めやすいと感じました。また、自分たちのニーズによってプログラムの内容が決まると聞いて、自分の知りたい話が色々できそうなので楽しみだと話された方もおられました。

参加者はそれぞれに悩みを抱えておられますが、みなさん子育てに前向きに取り組もうとされており、新しい人との出会いに期待感が大きく、じっくりと深い話をする機会を持ちたいと参加された人が多いという印象を持ちました。

#### セッションの様子

今回のプログラムは、以下の内容で全8回のセッションを行いました。

第1回／オープニング（出会い・ルール作り・テーマ出し）

第2回／しつけについてPart 1      第3回／しつけについてPart2

第4回／親のストレス      第5回／ママ友との付き合い

第6回／一日の過ごし方      第7回／子どもの発達

第8回／プログラムのふりかえりとこれからのこと

最初は、事前面談で聞き取った内容に第1回セッションで出し合った「話したいテーマ」を加え、特に要望が多かった「しつけについて」を2回目・3回目とし、4回目「ママ友との付き合い」

---

<sup>1</sup>Nobody's Perfect Japan 認定ファシリテーター

5回目「親のストレス」 6回目「夫について」 7回目「時間の使い方」というテーマの流れをファシリテーターから参加者に提案してスタートしました。

グループの雰囲気は初めから和やかで明るく、参加者それぞれが打ち解けようと努力している様子でした。グループワークでも話がはずみ、時間が足りなくなることが多かったように思います。

第2・3回でしっかり子どもについて話をしたところで、今度は、親自身の精神状態が子どものしつけに大きく影響するという話題が出て、それについて話したいということになり、第4回のテーマを当初予定していた「ママ友とのつきあい」を「親のストレス」に急きょ変更することになりました。その後、第5回「ママ友との付き合い」で他の人といい関係を作るにはどうすればよいかを話すうちに、夫との関係についても見直しができたようで「夫について」のテーマは特に必要ない話しがまとまりました。そのため「子どもと親の一日の過ごし方」を前倒しして行い、参加者から新たに希望が出て「子どもの発達と親のかかわり」へと続き、最終回を迎えました。終わってみると、今回のプログラムは、「子どものこと」→「親のこと」→「親と子どものかかわり」といった流れができており、当初ファシリテーターが考えていたテーマの予定よりも、参加者の意向に沿うことでよりスムーズな流れができ、満足度も高くなったように感じています。

最終回のセッションで今後のグループの在り方について話し合った時には、このまま別れるのはもったいないと参加者全員から声が出て、グループとしてのまとめ役も自然と手が上がって決まりました。プログラム終了後は、心理教育センターのご好意もあり、センターのプレイルームをお借りして集りの機会を持つことも決まり、とても喜んでおられました。心理教育センターのみなさんには、事後のフォローにまでお心配りしていただき本当に感謝しています。

### 保育スタッフとの連携

NPプログラム参加者の安心を確保するために、プログラムの内容と同等に参加者のお子さんをお預かりする保育がとても重要な意味をもつことになります。過去実施したプログラムの中でも、保育者の悪意はないけれど配慮のない一言によって、参加者が子どもから離れることに後ろめたさを感じるようになって参加意欲が一気に下がり、最後までそれが持ち直せなかったという経験もしました。今回の実施では、事前学習や各セッションの事後ミーティングをスタッフ間で密にすることができました。参加者や子どもたちについて活きた情報を共有することができ、何か問題になりそうなことに対して事前に対応ができたことは、非常に良かったと感じています。保育者の方が常に温かく見守る雰囲気で参加者に接して下さっていたことは、参加者が安心してプログラムに取り組んでいた様子からもよく分かりました。また、「ボランティアの学生さんたちが、わが子をととても可愛がってくれるのが嬉しかった」という参加者の声も聞きました。

### 最後に

NPプログラムを実施するたびに感じることは、「人はみな素晴らしい力を持っているのに、うまくそれを表に出せないことがある。でも人と人とのつながりが人を支え、そこから力を得て誰でも大きく成長することができる。」ということです。今回のNPプログラムも（財）ひろしま子ども夢財団と広島文教女子大学がつながり、たくさんの人の関わりが参加者を支えてくださったからこそ、事後の参加者同士のつながりにも続く有意義な内容になったと思います。こういう機会を与えてくださった関係者のみなさまに心から感謝するとともに、今後もNPプログラムを必要としている親のみなさんに、よりよい機会を得ていただけるよう、ファシリテーターとしてさらに経験を積み学んでいきたいと思っています。